

2024年7月のてがたんは申し込み制にて実施しました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。

次回のとがたんは8月10日(土)で、テーマは「いろいろな虫たちの”幼虫時代”」です。ぜひご参加ください。8月1日(木)の8時30分から電話での申し込みを開始します。市民スタッフの皆さま、次回の下見は8月4日(日)です。

7月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→手賀沼遊歩道→博物館内で解説
- 観察日時/天気：2024年7月13日(土) 10:00~12:00 /曇りのち晴れ
- 参加人数：20名(大人15人、子ども5人)
- 市民スタッフ：5名(石原直子、小泉伸夫、伊藤茂子、北村章子、湯瀬一栄)
- 鳥博職員：2名(望月みずき・脇水徳之)

一 観察した生き物の記録 一

下見で見られたものも含む。太字は毒のある生き物、「▲」は有毒生物に擬態した生き物。

【鳥類】キジ科:キジ(声) /ハト科:キジバト(声) /カイツブリ科:カイツブリ(声) /ウ科:カワウ/カラス科:ハシブトガラス、ハシボソガラス/シジュウカラ科:シジュウカラ(声) /ツバメ科:ツバメ/ヒヨドリ科:ヒヨドリ/ウグイス科:ウグイス(声) /エナガ科:エナガ(死体) /メジロ科:メジロ/ヨシキリ科:オオヨシキリ(声) /ムクドリ科:ムクドリ/スズメ科:スズメ/アトリ科:カワラヒワ/ホオジロ科:ホオジロ(声) /家禽や外来種:コバクチョウ(カモ科)

【爬虫類】ニホンカナヘビ、ヒガシニホントカゲ 【両生類】ウシガエル(声、特定外来種)、ヌマガエル

【昆虫】バッタ目:オンブバッタ、ショウリョウバッタ、ヒシバッタ、クルマバッタモドキ、コバネイナゴ、ウスイロササキリ、ホシササキリ、キンヒバリ、マダラスズ、エンマコオロギ/チョウ目:アカボシゴマダラ(特定外来種)、アオスジアゲハ、ナミアゲハ、ナガサキアゲハ▲、キタキチョウ、アサマイチモンジ、モンシロチョウ、チャバネセセリ、ベニシジミ、ルリシジミ、ヤマトシジミ、ウラギンシジミ(蛹)、**アオイラガ(幼虫)**、**ヒロヘリアオイラガ(幼虫)**、トビイロトラガ(幼虫)、ハマキガの仲間(幼虫)、**ヒトリガの仲間(幼虫)** /ハチ目:ハグロハバチ、**ニホンミツバチ**、**オオスズメバチ**、**コガタスズメバチ** /コウチュウ目:アオドウガネ、マメコガネ、ヒョウタンゴミムシ、トウキョウヒメハンミョウ、ヤマイモハムシ /カメムシ目:アブラゼミ、ニイニイゼミ、**キマダラカメムシ**、**ホソハリカメムシ** /カマキリ目:オオカマキリ(幼虫) /トンボ目:ウチワヤンマ、コシアクトンボ、チョウトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、アオモンイトトンボ、アジイトトンボ、ウスバキトンボ /ハエ目:アオメアブ▲、シオヤアブ▲、ミズアブ▲、ホリカワクシヒゲガガンボ▲

【クモ】アシナガグモ、**オニグモ**、**カバキコマチグモ(巣)**、コハナグモ、コガネグモ、ナガコガネグモ

【その他の生き物】シマミミズ、ナメクジ、ウスカワマイマイ

【草の花】キク科:ヒメジョオン、ブタナ、チチコクサモドキ/キク科:**セイタカアワダチソウ** /オオバコ科:ヘラオオバコ /マメ科:クズ、**シロツメクサ**、**ムラサキツメクサ** /カタバミ科:**カタバミ**、**オッタチカタバミ** /アカバナ科:アカバナユウゲショウ、コマツヨイグサ、オオバナミズキンバイ(特定外来種) /ツユクサ科:ツユクサ /アヤメ科:オオニワゼキショウ /ラン科:ネジバナ /タデ科:**ギシギシ**、**アレチギシギシ** /ブドウ科:**ヤブガラシ** /ナス科:**ワルナスビ** /キンポウゲ科:**ケキツネノボタン** /ツツラフジ科:**アオツツラフジ** /アカネ科:**ヘクソカズラ** /サギゴケ科:トキワハゼ /コミカンソウ科:ナガエコミカンソウ /ヒユ科:ナガエツルノゲイトウ(特定外来種)

【木の花】トウダイグサ科:アカメガシワ /アオイ科:ムクゲ /マメ科:ヤマハギ /キョウチクトウ科:**キョウチクトウ** /モクセイ科:**トウネズミモチ** /エゴノキ科:**エゴノキ**

2024年7月の観察アルバム



今回のテーマは「生きるための毒」でした。身近にいる毒をもつ生き物について、毒の成分やその作用をパネル付きで紹介しました。観察ルートでは様々なトンボの飛ぶ姿が見られ、草地を跳ねるバッタの観察も行いました。



石原 直子



小泉 伸夫

今月の案内人



①植物全体に毒をもつキョウチクトウ（夾竹桃）。枯れ枝の毒にも注意。



②交尾していたキマダラカメムシ。毒性の臭気を出して身を守る。

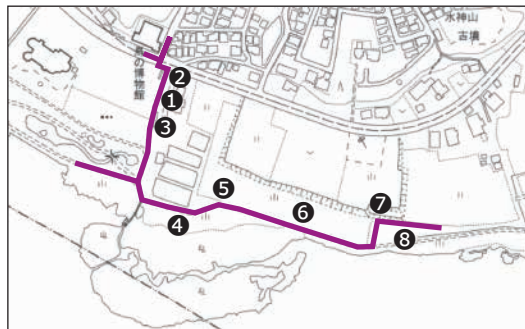


③食べると広東住血吸虫による脳炎などの被害が出るナメクジ。



④毒毛に触れると激しい痛みを襲われるヒロヘリアオイラガの幼虫。

歩いたルートと観察した生き物



⑤セミの成虫を捕まえて食べていたヒヨドリ。



⑥毒針をもつハナバチに擬態するミズアブ。



⑦アレロパシーで周りの植物を育ちにくくするセイタカアワダチソウ。



⑧草むらの中に隠れていたクルマバタタモドキの成虫。

今月の鳥 植物の毒と鳥

てがたんでは、エゴサポニンという毒成分を果皮に含むエゴノキを観察しました。人が果実をそのまま食べると喉や胃などの粘膜が炎症を起こします。ヤマガラは、エゴノキの実を好んで食べますが、嘴で器用に種を取り出して割り、中の柔らかい部分を食べています。また、餌が少なくなる冬に備えてエゴノキの実を地面や木の幹の間に貯える「貯食」の習性もあります。貯食した後に食べられなかった種は、春になると発芽して新しい木へと成長します。



エゴノキの木



エゴノキの果実



ヤマガラ